

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	京都大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	環境コミュニケーション・リテラシーの向上		
主たる研究科・専攻名	地球環境学舎		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 小林 慎太郎		

### [教育プログラムの概要]

本プログラムは、環境マネジメントおよび地球環境学の領域において、学際的実務能力の育成上重要な多言語・多文化・多専門領域などを総合的に理解し相互運用する能力を意味する「環境コミュニケーション・リテラシーの向上」を図ることを目的とする。すなわち、環境コミュニケーション・リテラシーとは、地球・地域環境問題を解決するために、(1) 分野横断の知見を理解し、(2) 多様な立場の人々と情報と見解の共有を導き、(3) プロジェクト遂行等の具体的行動をとるための能力とすることができる。

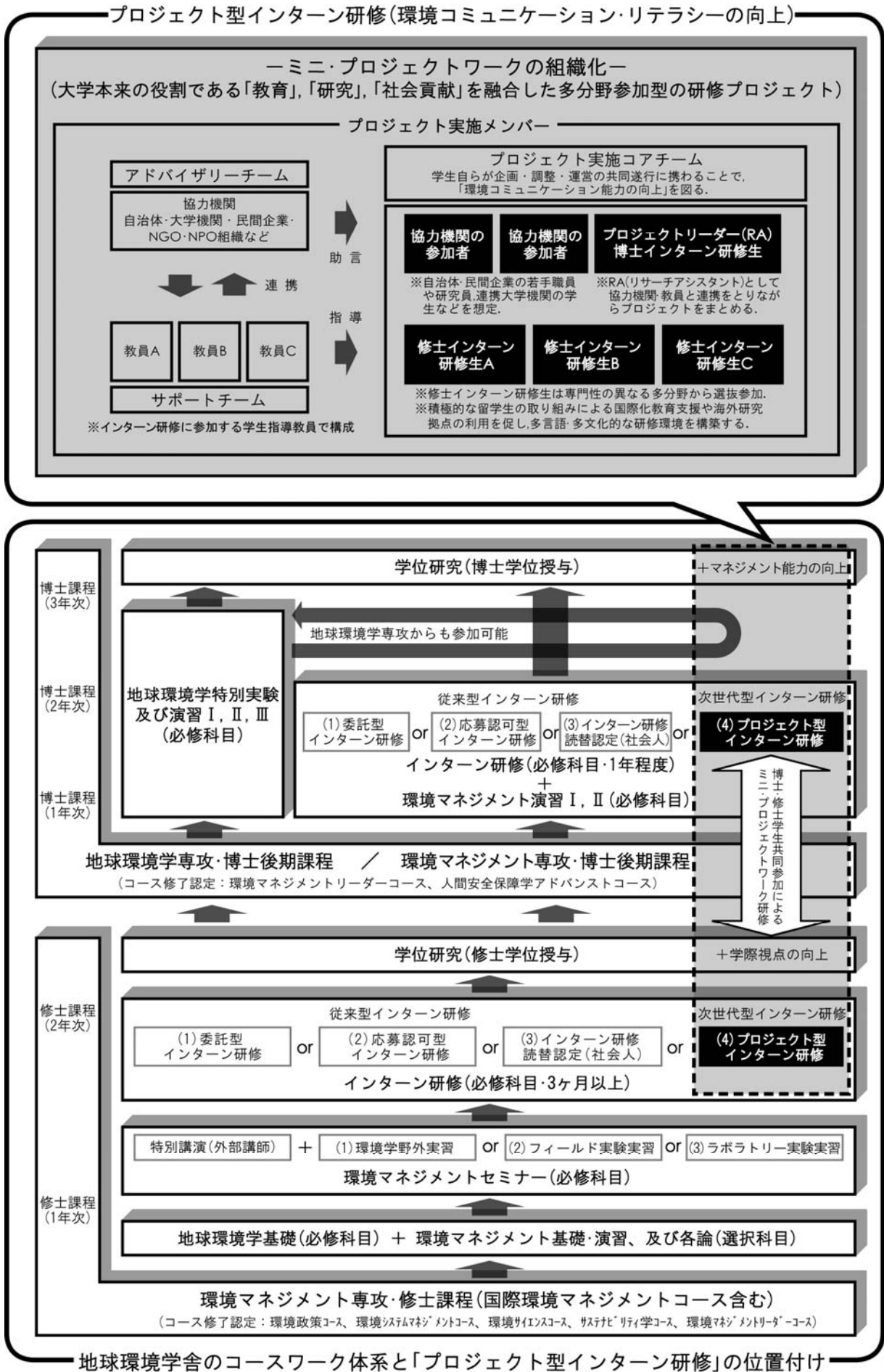
本大学院は、今後の地球環境の保全と持続可能な発展を担う実務者を養成するため、統合的学術研究分野の構築を地球環境学の根幹に据え、地球環境に関する広範な研究課題に対し各人材の学習ニーズに合わせた多様なコースワークの体系化に努めてきた。「環境マネジメント専攻修士課程」では、幅広い素養の習得を目的とする地球環境学基礎科目や環境マネジメントセミナー(外部講師による特別講義と実習授業)など講義科目の体系的な受講を経て、3ヶ月間以上のインターン研修を行い、研修の成果を活かした学位研究に取り組む。「環境マネジメント専攻博士後期課程」では、約1年間に及ぶインターン研修を必修科目とし、実践的な環境マネジメント研究を博士学位取得の要件としている。一方、「地球環境学専攻博士後期課程」は、異なる基礎学問との連携を保ち国際的に活躍できる研究者の養成を目的としており、2009年度からは環境マネジメント専攻と共同で「環境マネジメントリーダーアドバンストコース」・「人間安全保障学アドバンストコース」を設置し、インターン研修を含むORT(On the Research Training)科目をコース必修科目として取り入れている。これまでに、国際機関や国際NGO、NPO、官公庁、国公立研究機関、民間研究機関、国内外大学など多彩な研修受入機関で、実践的・技術的能力を向上させる研修実績を蓄積するなど、本大学院は地球環境学に関する基礎学習から学位研究までのプロセスにおいて、**インターン研修を基軸とするユニークな学習プログラム**を構成している。これまでのインターン研修プログラムでは個別分野の取り組みが多数を占めたが、今後は専門分野横断型・分野融合型の取り組みを推し進め、教育プログラムに反映させることで、**より高い環境コミュニケーション・リテラシーを有する人材の養成が可能と**考えられる。

そこで、本大学院インターン研修をより充実させるため、これまで中核であった外部機関へ研修委託を要請する「従来型インターン研修」に加えて、本事業では新たに学際的感性の習得を強化する「**プロジェクト型インターン研修**」を次世代型研修と位置付け、大学本来の役割である「**教育**」・「**研究**」・「**社会貢献**」を融合した**多分野参加型のプロジェクト**をインターン研修プログラムとして立案し、学生自らが企画・調整・運営の共同遂行に携わることで「**環境コミュニケーション・リテラシーの向上**」を図る。

具体的には、本大学院と連携する自治体、大学、NGO、民間研究機関等に関連するフィールドや共同研究活動を通して、地球環境・地域環境に関する**分野横断的な「ミニ・プロジェクトワーク」**を組織し、インターン研修の基盤を整備する。プロジェクト実施においては、複数分野の教員の指導のもと、博士後期課程学生をリーダーとし、修士課程学生が参画する学際的なチームワークによる対話型の研修とし、社会ニーズを反映した直接的・具体的な課題に取り組むことで実務能力を効果的に向上させる。さらに、留学生の積極的な参加を促し、多言語・多文化的な雰囲気のもと、国際的な環境マネジメント人材の育成を図り、「留学生30万人計画」等我が国政府の主要施策の一つである教育国際化にも寄与する。

本大学院はすでに、ベトナム(ハノイ、フエ、ダナン)を中心に**教育研究拠点**を設置しており、実践的フィールドでの「**プロジェクト型インターン研修**」を遂行できる環境が整っている。この取り組みを通じ、効果的なインターン研修の実施に加え、**本大学院自身の学際化促進や対象地域での成果をフィードバックする「社会貢献」**が期待できる。また、「**研修教育**」を「**研究的活動**」に重ねることで、持続的なインターン研修支援体制が構築され、**先行的実践教育型モデル**を構築する。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「地球環境の保全や持続的発展のために、複合施策の発案・実施のできる実務者及び研究者の養成」という人材養成目的が明確に掲げられており、蓄積した実績に基づき教育体制や海外インターンシップ等の推進基盤が十分に整備されている点は優れている。

教育プログラムについては、長期インターン研修の実績を踏まえて、多言語・多文化・多専門領域などを総合的に理解し相互運用する能力を有する人材の育成という目的の下、プロジェクト型インターン研修を次世代型研修と位置づけるなど、真理探究と実践的側面の双方を有した意欲的な取組として、実現可能性が期待できる。特に、プロジェクト型インターン研修自体が優れた教育手法であり、高い効果が期待できるが、今後の教育プログラム実施にあたっては、取組の評価方法等について更なる具体化が求められる。